

米国ハイスクール「動物学」の歴史的変遷：
ヒトの身体の扱いを中心に

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-01-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 日高, 翼, 丹沢, 哲郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/9972

I. 目的

米国における「生物学」の成立過程を解明することを最終的なねらいとし、その前駆的教科の一つ「動物学」の変遷過程を明らかにすることを目的とした。

II. 方法

前述の目的を達成するため、次の手順によって分析を行った。

1. 学校制度や「動物学」の設置率・履修率等を各種の調査報告の中から抽出し、「動物学」のハイスクールへの設置状況を明らかにする。
2. 各時代の代表的な教科書の構成や学習内容を分析し、それらの特色を明らかにする。
3. 上記結果を総合的に検討し、カリキュラムへの「動物学」の導入から衰退に至るプロセスを、当時の社会・科学・教育の状況や思想との関わりの中で、その諸要因を解釈する。

III. 結果・考察

設置状況に関する調査から、他の生物学系教科と比べ、ハイスクールへの設置率が19世紀を通して低かったこと等の特徴が認められた他、これまでハイスクール「動物学」は1849年に初めて導入されたとされてきたが、実際には1845年に既に設置されていた。また、これまで分類・記載を中心とする自然誌的なアプローチから実習を中心としたものへと変化したとされてきたが、教科書や実習書の分析から、一定方向の変化というより、むしろ混沌とした状態にあった。このように従来に通説にはなかった新たな知見がいくつか得られた。なお、本研究には平成28年度 JSPS 科研費（課題番号：16H00197）の助成を受けた成果の一部が反映されている。